

今週の日 549.4.21



たまたま学会の
大森用で京都
行った日が知事選
の最終日、翌日は
投票日であった。
桜が満開に近く、
京都はやはり美し

かったし、さきほど歩いた建仁寺の境内
も、平凡なのがかえって印象深かったが、
お蔭で熾烈な選挙戦の熱気
にふれることができた。

京都での空想

中 嶋 嶺 雄

との新聞も、今回の選挙
戦を描写するときに「街を
オレンジとグリーンに染め
分けた……」といった調子
で筆をふるえている。た
が、これは、まったくの虚構であって「染
め分けた」ところか、どこもかしこもオレ
ンジ一色、グリーンはまったくまぼろしであ
って、私の見たかぎりでは、わずかに八坂
神社前の一角が、かろうじて染め分けられ
ていたにすぎなかった。

この事実を、選挙戦の全貌から見たら氷
山の一角にすぎないだろうが、このように

状況からすれば、大橋候補は決して敗れた
のではない、といっているだろう。

これにしても、今回の選挙ほど多くの問
題を提起した前例はなかったようである。
私のような素人からすれば、社会党の醜態
もさることながら、江田派は、この千載一
遇の大会の機会に、なぜ堂々と党を割らな
かったのか、そして、その理由を大いに大
衆に訴えなかったのか、と思う。こんな疑

そ自民党なのだという見方があるけれど
ち、やはり、今日の日本とその国際環境の
複雑な現実を反映すればこそ、現在のよう
な党内分岐があるわけで、いっそのことい
ったん分裂してくれた方がどれほどすつき
りすることか、と思う。

その場合、保守三党論があるようだが、
素人眼からすれば、いまの自民党は二分裂
すべきではないか。青風会は、民社党のス
ン論者まで含むべきだし、A

A研は、社会党左派につなが
ると思う。社公民というけれ
ど公明はやはり公明であっ
て、自民のリベラルと民董
の一部および江田派とが一
つにまとまるべきではない

問を呈してみたら、同僚の政経学者たち
は、その可能性はまったくないのだといろ
いろ専門的に解説してくれた。だが、私
は、それでは結局、江田派はいつまでも校
・案であって弊になれない、と考えるを
得ない。

一方、日台路線の問題で、自民党も揺れ
ている。青風会からA研までの自民党こ

か。
このような多党化の再再制法の過程
があって、はじめて真の責任政党制もしく
は健全な保守共済時代が到来するのではな
かるうか。

これは、素人の空想にすぎないが、不真
面目な描写ではないと思う。
(東京外語大助教授)